

|   | 分野・担当            | 本校の求める姿  | 本年度の重点目標   | 評価活動項目  | 目標達成のための具体的方策   | 評価規準・数値目標   | 中間評価   | 達成度                               | 最終評価   | 達成度                      | 次年度への課題<br>次年度への行動目標  |
|---|------------------|--|--|---|---|---|--|-----------------------------------|--|--------------------------|---|
| 1 | (総務・集会)<br>式典・集会 | (1)式典を通じた厳粛な行動・姿勢の習得<br>(2)愛校心および集団帰属意識の高揚   | 厳粛な式典を行いながら、生徒に愛校心と集団帰属意識をより持たせるよう努める。   | 厳粛な式典の運営  | 各式典および集会における集合状況・身だしなみ他、TP-Oにに応じた行動をとれるよう生徒に指導する。<br>生徒が校歌・式歌等をしっかりと歌えるように指導するとともに、集会や式典に対し、積極的に参加する意識の高揚を図る。   | 集会時における生徒の集合状況、身だしなみ等、適切に指導がなされているか。<br>校歌、式歌等をしっかりと歌えるか。表彰式、卒業式等の式典が適切に行われ、生徒自身が愛校心を持ちながら積極的に参画できたか。   | 多くの教員の指導のもと、概ねできている。<br>校歌を今以上に大きな声で歌えるよう、卒業式に向けて指導する必要性を感じる。  | A<br>B                            | 多くの教員の指導のもと、概ねスムーズな式典の運営ができた。<br>校歌については、昨年同様(始業式・終業式で合唱部員が前面に出てリードすることができたが、全校生徒が更に大きな声で歌えるように指導する必要性を感じた。  | A<br>B                   | 引き続き、今年度と同様に指導を進めたい。<br>引き続き、指導を進めたい。   |
| 2 | PTA活動(総務外)部との連携  | (1)PTA・同窓会と協力し合う、三位一体の積極的な学校運営<br>(2)地域に貢献し、愛され、地域に開かれた学校づくり                           | (1)PTA・同窓会・地元地域との連携強化を図り、さまざまな行事を通じて、保護者相互の連携を強める。<br>(2)地域住民との協力を図りながら、地元地域に根ざした本校の教育活動を推進し、理解を求める。また、そのための広報活動を積極的に行う。<br>(3)地域関係諸機関との連携を強化し、地域防災意識の高揚を図る。 | 保護者のPTA活動への積極的な参加の促進<br>PTA・同窓会・町内自治会等、各組織との積極的連携<br>地域関係諸機関等と連携した防災行事への積極的参加と防災学習の充実 | PTA行事における保護者の一層の参加を呼びかけ、活性化を図る。<br>PTA・同窓会との強固な連携を図りながら、地元地域や中学校等への発信を積極的かつ適時に行う。本校のさまざまな活動内容を、より魅力のあるものとして外部に発信できるよう努力する。<br>生徒自身が地域の防災活動に積極的に参加する機会を確保するとともに、防災マニュアルの完成版を提示する。  | PTA行事における保護者の参加状況は良くなったか。<br>PTA、同窓会、地域との連携はうまくとれたか。<br>生徒が地域の防災活動に積極的に参加しながらアイデンティティの確立をはかることができたか。昨年度出された防災マニュアルの内容を精査し、完成版を示すことができたか。  | 行事に参加する保護者の数は、例年と大きな変化はないが、さまざまな工夫をしながら、新たな取組を始めている。<br>PTA・同窓会・地域と連携しながら行事を進めている。<br>地域の防災活動に積極的な参加ができていた。防災マニュアルもほぼ完成に近づいている。今後はマニュアルの要約版を周知徹底し、有事の際の避難がスムーズに行われる掲示物を作成し可視化したい。  | B<br>B                            | PTA役員・理事の方を中心に、地区代表の発表を成功させた。また、その他様々な学校行事に、ご協力をいただいた。<br>学校行事において、準備計画段階から同窓会・PTA・地域と更に十分な連絡をとりながら実施すべきであった。  | A<br>B                   | PTA総会に向けて、保護者の更なる参加を促したい。<br>一日学校開放講座等の行事において、PTAおよび同窓会と連携を図りつつ、より良い行事が実施できるよう考えていきたい。  |
| 3 | (学習指導)           | (1)授業規律の徹底<br>(2)予習復習の習慣化<br>(3)公開授業・授業評価・研究授業研修による授業の質の向上<br>(4)生徒実態に即した授業・評価方法の工夫    | (1)家庭学習時間の確保と基礎学力の定着<br>(2)授業規律の徹底<br>(3)少人数、習熟度別授業の円滑実施<br>(4)科目選択指導の工夫と改善及び系列の特色を生かした指導<br>(5)主権者教育の充実<br>(6)図書館機能の充実と読書活動の推進<br>(7)校務支援システムの円滑運用          | 学習習慣の確立と授業改善<br>授業規律の確立<br>教育課程と科目選択の改善<br>図書館機能の充実<br>校務支援システムの円滑運用                  | 「定期的な課題」や「小テスト」を通じて、学習習慣を身につけさせ、学力を向上させる。<br>「授業公開」「授業アンケート」を柱として、授業改善をする。基礎力充実のための「学力コンテスト」のあり方を検討する。<br>守るべき授業規律を徹底する。「授業指導連絡票」や「授業懇談会」の活用。<br>ライフクリエーション系列を改編し、新しい系列を発足させる下準備をする。<br>蔵書整備で必要な資料を揃え、提供し、授業や総合で活用される場を作る。図書館管理システムNoahの導入<br>マニュアルを充実させるとともに、通知票・指導要録・調査書等、多様に運用する。システム管理に携われる人材を増やせたか。              | 生徒の家庭学習を調べ、その時間が増加したか。授業改善ができたか、授業アンケートや授業公開の参観者数などにより判断。学校全体の企画として実施する方向性を持たせる。<br>守るべき授業規律がほぼ守られているか、授業指導連絡票の提出状況と内容により判断。授業への参加態度は良好か。<br>2年後に、核となるものが明確になるような系列の立ち上げができるようになったか。<br>適切な図書を選定、購入、廃棄ができたか。利用冊数及び利用人数は増加したか。Noahの導入ができたか。<br>より正確で、適正な資料作成ができたか。システム管理に携われる人材を増やせたか。 | ・「小テスト」の実施は多く為されているが、学習時間の調査はまだしていない。<br>・授業公開は、参加者数に大きな変化はない。<br>・学力コンテストは実施方法の検討中である。<br>・授業規律についてはほぼ守られているが、授業への参加態度が積極的とは言えない。<br>・部会内での検討を始めたところである。<br>総合や国語科の授業で利用はあるが、調べ学習の資料整備は不十分である。利用人数や冊数は昨年と大きな変化はない。Noahの導入に必要なOfficeのソフトがPCに入っており、今年度購入予定のため、Noahの試行は出来ていない。<br>教務部内で、複数人で校務支援システムを利用しているほか、業務の一部を進路指導部に委譲するなど、システム管理に携われる人材は増えつつあるが、他分掌までは至っていない。 | B<br>B<br>B                       | 家庭での学習時間は、ほとんどしない者が春40%から秋では50%になった。これは、例年と同じである。但し、1年生は3分の1程度である。<br>授業公開、授業アンケートは例年通り実施した。<br>学年コンテストは不確定要素もあるが、実施されている。<br>指導票が、授業に向かう姿勢等でも利用されるようになってきた。<br>色々な系列案はあるが、予算や教員配置の問題がある。<br>購入において教職員の希望が増加。教職員が利用できる図書及び生徒への推薦図書が適切に選定・購入できた。廃棄は1月現在では本年度分は完了していない。利用については勉強で図書室を利用する生徒が増加傾向にある。Noahは必要なOfficeのソフトが未購入で導入は出来ていない。<br>昨年度の設定ミスによる印刷の不備が判明するなどトラブルが起きたが、その中で、より正確な資料を作成する方法がわかった。<br>教務部内でシステム管理に携われる人材を育成しつつあるが、他分掌までは至っていない。 | B<br>B                   | 教科・学年との関係を密接に、家庭学習の時間の改善を目指したい。また、家庭学習時間は、学年別での動向も注目していきたい。<br>学年コンテスト他、学校全体の取り組みを活発にしたい。<br>携帯電話使用・遅刻だけではなく、積極的な利用がされるようにしたい。<br>学校全体の取り組みとして、系列がどうあるべきかを考えていきたい。<br>より利用価値のある資料収集に努めるとともに、利用促進と蔵書管理のためのNoahの導入を確実に行う。<br>室内環境をより新鮮で居心地の良い空間に整える。<br>他分掌に委譲すべき業務は委譲する。 |
| 4 | (進路指導)           | (1)計画的・継続的進路指導<br>(2)保護者への進路情報の充実<br>(3)大学研究・見学の充実<br>(4)組織的進路指導法の研究<br>(5)推薦合格生徒の学力保証 | (1)生徒個々の夢や適性を見据え、3年間を見通した指導体制の確立<br>(2)インターンシップや大学での学びの拡大による夢の育成と将来設計の構築<br>(3)保護者へ提供する進路情報の充実   | 進路指導の確立<br>校外や家庭での学びの拡大と充実<br>保護者へ提供する進路情報の充実   | 進路研修会の内容をさらに充実させ、本校の進路指導についての共通理解をはかる。<br>インターンシップや大学等の公開講座について情報を周知し、参加に結びつける。家庭学習の記録をつける。<br>PTA総会後に進路講演会を実施するとともに、保護者会では配布資料の内容を充実させる。必要な情報を発信できる。   | 進路指導についての共通理解ができたかを研修後のアンケートなどにより判断する。昨年より出席者が増加したか。<br>充実した活動ができたかを参加者の研修記録などにより判断する。昨年より参加者が増加したか。家庭学習時間の推移により判断。<br>十分な情報提供ができたかをPTA進路委員会でその振り返りの状況で判断する。昨年度より情報量を増やすことができたか。  | ・出席者数は昨年と同程度であった。1・2学年担当の教員の参加が少なく、促進したい。<br>看護体験研修は参加希望者が多いが、その数が少ない。<br>PTA総会後の「進学マナープラン講座」のほか、1学期保護者会期間中に10種類ほどの進路資料に解説を付けて自由に持って行けるコーナーを設けた。   | B<br>B                            | 予定していた研修会をすべて実施することができた。<br>12月保護者会期間にも資料配布コーナーを実施した。配布状況は良好であった。  | B                        | 研修会の内容・やり方を検討し、より効果的な研修を目指す。<br>生徒への案内を強化して、参加を促進する。<br>情報提供に関する案内を行き届かせる。  |
| 5 | (生徒指導)           | (1)身だしなみ指導、遅刻・欠席指導を学年中心に指導し、基本的生活習慣が確立される体制の確立<br>(2)交通安全指導の徹底、非行防止、問題行動(いじめ)の根絶       | (1)規範意識やマナーを徹底指導し、基本的生活習慣が確立された高い品位、品格と道徳心を持つ生徒の育成<br>(2)いじめ防止基本方針に則り、いじめのない安心・安全な学校づくり<br>(3)生徒自ら気持ち改善する。生徒が指導し合い成長する生活指導の在り方の工夫                            | 紛失・盗難の防止<br>いじめのない安心・安全な学校づくり<br>身だしなみ指導の充実<br>時間を守る意識の高揚<br>安全意識やマナー・モラルの向上          | 貴重品の自己管理を徹底させるとともに、物を大切にすることや整理整頓を心掛けさせる。また、 unnecessaryな物を学校に持ち込ませない。<br>生徒観察や心の健康アンケートなどを通し、生徒の心理変化や環境変化を早期発見・早期対応ができたか。<br>定期的な点検、登校指導、巡回指導により、制服の正しい着用・清潔な頭髪の維持・装飾品の不着用を徹底させる。<br>各学年・生徒指導部の早期登校などの指導により、遅刻の減少に努める。<br>授業や教育活動の場面で時間を守れるよう指導する。<br>交通安全指導等で安全意識を高め、さらに近隣からの苦情があればその都度集会を開いて安全意識やマナー・モラルの指導・啓発をする。 | 盗難・紛失届数が昨年より減少したか。<br>いじめの早期発見・早期対応ができたか。<br>整った身だしなみで学校生活が送れているか。<br>昨年度より若干の減少となった。特定の生徒の遅刻が多いため、継続的に指導していく。<br>交通安全事件数・苦情件数が減ったか。  | ・昨年度に比べ増加している。今後は、機会があるごとに貴重品管理の徹底とロッカーの施錠を継続的に指導していく。<br>心の健康アンケートをお渡し、生徒の問題に早期対応ができた。また、生徒への声かけなどによりはやくはやくに悩みを聞くことができた。<br>指導数の大きな変化はみられない。同一生徒による指導が多くなった。<br>昨年度より若干の減少となった。特定の生徒の遅刻が多いため、継続的に指導していく。<br>交通安全事件数、苦情件数ともに大きな変化はみられない。   | C<br>B<br>B                       | 紛失物は10月以降減少した。巡回や自己管理への注意がこうした現状になったと考える。<br>心の健康アンケートや普段の担任の観察等から、生徒面談等速やかに対応することができた。<br>昨年度と比較すると、指導数は減少した。しかし、同一生徒による指導は多かった。<br>昨年度と遅刻数はほぼ同数となった。進路決定後、2回遅刻の生徒が増加した。  | B                        | unnecessaryな物をもってこない、施錠をすることの意識づけを継続して指導していく。<br>いじめ等の萌芽を早期発見できるように努める。<br>全職員での指導を継続していく。<br>遅刻指導のやり方を見直す必要がある。  |
| 6 | (生徒会活動)          | (1)生徒会活動、部活動の活性化<br>(2)社会貢献活動の推進による有用感の醸成  | 生徒会役員活動、部活動の活性化を推進<br>社会貢献活動の参加による地域に根ざした活動の推進   | 生徒会活動の活性化<br>部活動の活性化<br>(防災)ボランティア活動の充実   | 役員会の内容を充実させ、南陽祭をはじめとする学校行事を、生徒が主体性を持って企画・運営できるように指導・支援する。<br>メリハリのある部活動をめざし、学習と部活動の両立できる環境を整える。特に部活動への参加人数を増やすだけでなく、3年間継続して行ける環境整備を検討する。<br>地域(防災)ボランティアに積極的に参加させる。   | 役員会と顧問の間に連絡・報告・相談がしつかりなされていたか。各行事の実施内容を評価することができたか。議員・実行委員等の生徒へのアンケート結果を基に、次の行事に繋げる検証をする。<br>各部活動と連携して両立に取り組みしたか。3年間継続している生徒の人数を把握し、統計資料を作成する。試合・大会の結果を広報できたか。PTA・同窓会と連携して、部活動活性化について検討できたか。<br>ボランティアへの参加人数が増加したか。防災ボランティアリーダーへの参加者がいたか。   | 役員選挙の立候補者も自発的になるようになり、学校祭などの行事に対して、企画から運営まで一通り、対応できるようになった。<br>活性化に向けての部活動の統合や顧問の配置を検討したが、現実には困難を極めている。男女別の部活動については、統合することとする。<br>今年度赤い羽根の募金のみJRC部と連携して実施した。使い捨てコンタクトのプラスチックの回収など、新たな活動も展開できた。   | A<br>B                            | 1・2名の欠員が出ることもあるが、役員によっては投票になることもあり一定の盛り上がりを見せている。役員が出た場合も議会が積極的に候補者が出て、自発的に行動している。役員自ら企画・計画ができるようになってきた。<br>三年生が引退し、部員数が激減した部活動もあり、部活動の統廃合や顧問の適正な人数配置など検討することとした。<br>ボランティア活動の年間計画を策定し、計画的に実施できるようにしたい。  | A<br>B                   | 先を見越した企画・計画をできるよう、顧問との連携を密にし、生徒会独自の企画ができるようにしたい。<br>次年度、顧問の希望は、運動部・文化部両方から選択することとし、すべての部活動顧問を複数配置したい。<br>ボランティア活動の年間計画を策定し、計画的に実施できるようにしたい。   |
| 7 | (学校保健)           | (1)心身の健全育成<br>(2)清掃指導の充実による校内美化の推進   | (1)心身の健康の維持増進<br>(2)清掃指導の充実による安全で清潔な校内環境づくり<br>(3)教育相談体制の充実  | 心身の健康管理・教育相談体制の充実<br>清潔で安全な校内環境づくりの促進   | 教育相談体制の充実<br>自殺予防教育の推進<br>美化デーおよび清掃状況点検/パトロールの実施<br>校内外清掃を行っている部活動との連携<br>保健だよりの発行・エコパトロール・ゴミ分別補助等委員会活動の実施<br>清掃ボランティア活動の実施   | SCの活用記録や保健日誌および保健室利用状況で判断<br>1学期中に、昨年度末に行った自殺予防教育を行えたか。<br>美化デーおよび清掃状況点検/パトロールを予定どおり実施できたか。<br>1回目、6月に予定どおり実施できた。2回目は、11月に実施予定。<br>年間を通して継続的に充実した活動ができたか。<br>年間2回以上の活動ができたか。  | 予定どおり実施できた。<br>1回目は、6月に予定どおり実施できた。2回目は、11月に実施予定。<br>今のところ、予定どおり実施できている。<br>予定どおり実施できた。   | B<br>B                            | 相談係を中心に、心身の健康維持を保てた。<br>11月実施の美化デーは、雨天中止となった。10月(後期)から、月1回トイパトロールを実施した。<br>年間を通して継続的に充実した活動ができた。<br>予定どおり実施できた。  | B<br>A<br>B              | より生徒の心身の健康の維持増進ができるようより組織化できるよう努める。<br>清掃箇所を見直し、点検及びパトロールに関して、引き続き行う予定。<br>引き続き行う予定。<br>引き続き行う予定。   |
| 8 | (地域連携)           | 地域に貢献し、愛され、地域に開かれた学校(文化の殿堂)  | (1)地球規模で考え地球視点で行動する地域連携事業の確立<br>(2)地域に愛され、信頼される学校づくりの方針と情報の発信活動の充実   | 国際理解教育の推進<br>地域連携の推進  | 国際理解検討委員会の計画をもとに、国際理解を促す内容を学校行事のテーマに盛り込み、国際理解教育の一層の充実を図る。<br>授業や部活動で地域や企業との連携事業を展開しながら、生徒の成長を促す。またその様子を地域に発信する。   | 国際理解を促す内容を学校行事のテーマに盛り込み、計画から発信まで年間を通して、国際理解教育を充実させ、生徒の課題解決力を向上させることができたか。<br>授業や部活動で行う地域や企業との連携事業で生徒が成長したか。また、地域に発信することにより、地域の信頼を高めることができたか。  | 今後、実施予定。<br>福祉ネットワーク系列、情報ビジネス系列、部活動などと連携を実施。今後も様々な取組が予定されている。  | 評価できず<br>A                        | 愛知文教大学、名古屋学院大学、国際課の留学生とLT、ワークショップ、お茶会などで連携を行うことができた。<br>福祉ネットワーク系列、情報ビジネス系列、NanyoCompany部、コンピュータビジネス部、JRC部などが地域との連携を行い、それぞれ高い評価を得た。  | A<br>A                   | 細部については、見直しや調整が必要であるが、大枠はこのまま継続したい。<br>次年度についても今年度同様に進め、生徒の自己肯定感をさらに高めさせたい。   |
| 9 | 多忙消化             | 業務改善を進め、在校時間を適正化する   | (1)長時間労働の是正に向けた在校時間管理の適正化<br>(2)業務改善に向けた取組   | 働き方の改善  | 施設時間を遅くとも20時とし、定時退校日の設定日を増やす。<br>在校時間等の状況記録で、時間外勤務が80時間超の人数が減少したか。  | 在校時間等は昨年と比較して減っているが、さらなる業務改善に取り組みたい。  | B  | 教職員の働きかた改革に関する意識も昨年度に比べ高くなってきている。 | B  | 部活動指導を含めたさらなる業務の改善に取り組む。 |   |